

## 「世界湖沼デー」の制定

- 国連の記念日（国際デー）として「世界湖沼デー」の制定に向けた取組を推進し、世界の水議論における湖沼問題の主流化およびSDGsの達成に寄与する。

【提案・要望先】 外務省、国土交通省、環境省

### 1. 提案・要望内容

#### 「世界湖沼デー」の制定に向けた取組の推進

- 2024年の国連総会における「世界湖沼デー」の提案と決議の実現に向けた主体的な取組の推進

### 2. 提案・要望の理由

- 地球上の全ての経済活動や社会活動は、質の高い淡水とその供給に依存しており、安定した水を供給できる湖沼の果たす役割は大きい。
- 一方で、気候変動等の影響から世界各地における水問題が深刻化。
- 本県で脈々と受け継がれてきた琵琶湖を大切に暮らすは、持続可能な社会の実現に向けたローカルSDGsモデルであり、このことを踏まえ、これまでから本県では湖沼問題を世界の水議論の主要課題として位置づけるため、世界湖沼会議等の国際会議に積極的に参加し、湖沼の重要性を世界に発信するなど主導的な役割を担ってきたところ。
- 2023年3月には国連において、世界的に深刻化している水問題を解決するため、46年ぶりに「国連水会議2023」が開催され、この会議において、気候変動による水質や生態系の悪化に対応するため、全ての国や関係者が連携して対応すべきとし、そのために「世界湖沼デー」などシンボリックな日を制定し、湖沼の世界的な関心を惹きつける必要性が示されたところ。
- 持続可能な湖沼流域管理に向けて、世界の人々の意識を啓発し、行動に繋げていく観点から、「世界湖沼デー」の制定は大変有意義であり、その実現のために、国内外で機運を醸成し、様々な国や地域と連携・協力していく必要があると思料。
- 国においては、2024年秋(予定)に開催される国連総会において、「世界湖沼デー」の制定を提案するとともに、その決議の実現に向けて、関係省庁が国連機関や関係国などと国際的な連携・協働を図られるよう要望する。



琵琶湖保全再生法（平成27年公布）において国民的資産と位置付けられた琵琶湖

## (本県等の取組状況と課題)

### (1) これまでの取組状況

- 1980年7月 「琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」施行(7月1日)
- 1981年7月 「びわ湖の日(7月1日)」を制定(※1)
- 1984年8月 第1回世界湖沼会議(琵琶湖・大津)開催(※2)(8月27日、主催:滋賀県等)
- 1986年2月 国際湖沼委員会(ILEC)設立(草津市)
- 1993年6月 琵琶湖がラムサール条約湿地に登録
- 1995年4月 UNEP 国際環境技術センター開設(草津市)
- 2001年11月 第9回世界湖沼会議(琵琶湖・大津)開催
- 2003年3月 第3回世界水フォーラム(琵琶湖淀川流域)開催
- 2015年9月 「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」施行



第1回世界湖沼会議 開会  
(1984年8月27日)

- (※1) 県民及び事業者の間に広く環境の保全についての理解と認識を深めるとともに、環境保全に関する活動への参加意欲を高めるための日(1996年3月に滋賀県環境基本条例に位置付け)。  
(※2) 以後、現在に至るまで全ての世界湖沼会議に参加。

### (2) 「世界湖沼デー」の制定に向けた国際会議の動向

- 2022年3月 国連環境会議(UNEA5.2)
- 2023年3月 国連水会議2023(UN 2023 Water Conference)
- 11月 第19回世界湖沼会議(ハンガリー・バラトンフェレド)
- ➡ 「バラトン宣言」に『「世界湖沼デー」の制定に向け推進を図ること』が盛り込まれた
- 2024年5月 第10回世界水フォーラム(インドネシア・バリ)
- 秋頃 国連総会(アメリカ合衆国・ニューヨーク) ※予定

### (3) 「世界湖沼デー」の制定による効果

- 「湖沼」を世界の水を巡る議論の主要課題へ位置付けること(湖沼問題の主流化)に向け、世界の湖沼関係者間の意識の高揚や更なる連携に寄与。
- 「湖沼」とSDGsの関係が強化され、湖沼保全を通じた世界各地におけるSDGsの達成に貢献。
- 400万年の歴史を有する世界有数の古代湖であり、日本最大の湖である琵琶湖を預かる滋賀県として、琵琶湖における環境保全活動の更なる機運の醸成および国際連携・協力の推進が一層加速。



第19回世界湖沼会議・開会式において江島副知事から「世界湖沼デー」制定に向けた賛同を呼び掛けた